

第2類医薬品

販売名: アセトアミノフェン顆粒A 60包

【アセトアミノフェン顆粒の特徴】

○アセトアミノフェンは、100年以上世界中で使われる解熱鎮痛薬です。WHO(世界保健機構)が定めた必須医薬品モデルリストに収録されており、お子さんや妊娠中・授乳中でも使用を推奨されている成分です。

【成分及び分量と働き】(3包 2100mg)

成分	1日量3包中	作用
アセトアミノフェン	900mg	熱を下げ頭痛や、のど、関節のいたみをやわらげるのによく効きます。

添加物として、乳糖水和物、軽質無水ケイ酸を含む。

【用法及び用量】

下記の量を、1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさせて服用する。服用間隔は4時間以上おくこと。

年齢	1回量	1日服用回数	年齢	1回量	1日服用回数
15才以上	1包		3才以上7才未満	1/3包	
11才以上15才未満	2/3包	1回	1才以上3才未満	1/4包	1回
7才以上11才未満	1/2包				

【効能又は効果】

- 1) 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
2) 悪寒・発熱時の解熱



使用期限 製造番号

副作用救済救済制度 ☎0120-149-931

お客様相談窓口

御所業舗株式会社
0745(62)3388(9:00~17:00)
月~金(土日・祝日を除く)

製造販売元
御所業舗株式会社
奈良県御所市1207番地



△ 使用上の注意

❌ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる。)

- 次の人は服用しないこと
(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
- 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬
- 服用前後は飲酒しないこと
- 長期連用しないこと

📖 相談すること

- 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。(3) 高齢者。(4) 薬などよりアレルギー症状を起こしたことがある人。(5) 次の診断を受けた人。心臓病、腎臓病、肝臓病、腎・十二指腸潰瘍
- 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症状	関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ	精神神経系	めまい
消化器	吐き気、嘔吐、食欲不振	その他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。
その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死剥離症、 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲が無い等が持続したり、急激に悪化する。
薬剤性過敏症症候群	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹・発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根等)のはれ等があらわれる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(即ちが痛み)、下痢等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたらすぐに息切れがする、息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

3. 5~6回服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

＜用法及び用量に関連する注意＞

小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

【保管及び取扱注意】

- 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい場所に保管すること。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる。)